

Q2 N95 マスクの取り扱い、コロナ陽性者の個室隔離、吸引器に溜めた痰の処理について

施設種別	高齢者施設
質問①	N95 マスクを1日中装着して仕事をしている。感染部屋に入った後もそのまま、他の入居者様と接しているが、不安な職員もいる。正しい方法であるか知りたい。
回答	<p>新型コロナウイルスのパンデミック後、2023年5月8日より5類感染症に移行しましたが、過去の経験から新型コロナウイルス感染の懸念を理由に感染対策の緩和に戸惑う場面が多く、多くの施設で見受けられます。貴施設でも、同様に職員の不安からN95マスクを装着しているものと察します。</p> <p><N95マスクの取り扱いについて></p> <p>新型コロナウイルスの主要な感染経路としては、①飛沫感染、②エアロゾル感染、③接触感染が考えられます。N95マスクは、②での使用が推奨されています。高齢者施設においてエアロゾルが発生する場面としては、新型コロナウイルス感染者（以下：感染者）の気道吸引、誘発排痰、激しい咳、大きな声を出す場面、心肺蘇生などが該当します。その他は、不織布マスク（サージカルマスク）で対応可能だと考えます。また、N95マスクを長時間装着すると息苦しく労務負担が大きくなります。さらに、感染者に使用したN95マスクの表面には、ウイルスが残存している可能性が高いです。息苦しいことでマスクに触れる機会が増え、接触感染のリスクが高まるため、他の入居者との対応時には外す必要があります。以上のことから、N95マスクの運用例をご紹介します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着脱のタイミング＝居室に入る前に装着し、居室から出る前に専用スペースを決めて外す ・交換＝1日1回（ひとり1枚/日）を目安とする （通気性のある紙袋等で保管。接触感染がある場合は、紙袋の再利用でN95マスクの顔に触れる面 が汚染する可能性があるため、紙袋は都度変えることを推奨します。） ・再利用する際の着脱場面でマスク表面に触れた際には、手指衛生を行う <p>下記の資料も参考にいただきN95マスクの運用について決めておくことをお勧めします。</p> <p>参考資料</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. （第3版）介護現場における感染対策の手引き (mhlw.go.jp) 厚生労働省老健局 2. 医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド（第5版）最終 (kankyokansen.org) 日本環境感染学会 3. 001248424.pdf (mhlw.go.jp) 診療の手引き第10.1版 厚生労働省 4. PowerPoint プレゼンテーション (ncgm.go.jp) 国立国際医療研究センター 5. 安全器材と個人用防護具 - N95マスクの選び方・使い方 (jrigoicp.org) 職業感染制御研究会
質問②	感染者と同室の入居者様に感染させないように対応する方法があれば教えてほしい。
回答	<p>感染者（疑い例含む）は個室隔離が原則となります。発症（発熱、咳嗽、咽頭痛など）時から感染を疑い、マスク装着、カーテン隔離、食堂等の共有スペースへの移動を禁止し、個室への移動（手配）等の対策をとります。陽性判定後は、同室の入居者も感染している可能性があるため注意が必要です。</p> <p>参考資料</p> <p>（第3版）介護現場における感染対策の手引き (mhlw.go.jp) 厚生労働省老健局</p>
質問③	吸引器にためた感染者の痰を破棄する際に、パット等に吸わせて破棄しているが、他の方法があれば教えてほしい。

回答	<p>他の方法としては、トイレや汚水槽への廃棄を考えますが、廃棄時に周囲へ飛散する可能性があるため、その都度清掃が必要となります。廃棄に際しては、手袋、ガウン、マスク等の適切な个人防护具を着用し処理後は速やかに外しましょう。パットへの廃棄時に関しても、職員や周囲の環境が汚染する可能性があるため、コスト高となりますが吸引びんの中身がディスポ式（使い捨て）となっている製品が感染対策上は有効です。</p>
----	---

令和6年9月回答